

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.837 2024

2024年6月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



第30回名古屋YMCA国際チャリティーラン2023

OPINION

インクルーシブな社会を目指して

YMCA国際チャリティーラン大会委員長 とみた うちゅう
東京パラリンピック競泳メダリスト **富田 宇宙**

この度「YMCA国際チャリティーラン」大会委員長になりました、富田宇宙です。

私は小学生のころ熊本YMCAの水泳教室に通っていましたが、中学・高校でも水泳部に所属していましたが、当時は水泳選手を目指していたわけではありません。自分の名前のおとりに、宇宙飛行士になりたいと思っていたのですが、高2のときに網膜色素変性症を発症。徐々に視力を失っていき、24歳のときにパラ水泳の世界に入りました。今は、明るい・暗いが見える程度。パラ水泳では重度視覚障がいクラスのスイマーです。



その後も家族を含めてYMCAとの関係は続き、コロナ禍で都内の練習施設が閉鎖されたときには、熊本YMCAのプールで練習させていただきました。「YMCA国際チャリティーラン」も以前から応援しています。これからは大会委員長として、多くの子どもたちに豊かな体験の機会を提供できるよう、皆さまと一緒にがんばっていきたく思います。

この大会は障がいのある子どもたちを応援するとともに、「障がいへの理解を高めること」も目的としています。これは私がパラ水泳を続けてきた目的ともつながります。私はパラ水泳でさまざまな障がいのある選手たちと過ごす経験を通じて、多様な人がいる環境こそが自然な社会のあり方であることを実感しました。私たちはスポーツを通じて、周囲とのつながりを育んだり、自分や仲間の可能性に気づくことができます。そうしたスポーツの力を伝えることもまた、パラアスリートとしての私の役割だと思っています。

まもなくパリ・パラリンピックが始まります。ぜひこの機会に、選手たちの豊かな「多様性」、特徴やストーリーに触れていただきたいと思います。中でもパラ水泳は出場できる障がいの種類が多く、肢体不自由や知的障がいなどさまざまな選手が泳ぎますが、それぞれに乗り越えてきた困難もまた多様です。例えば視覚障がいの場合、そもそもプールに行くこと自体も簡単ではありませんし、いざ練習となってもフォームを見て練習することができません。競技以前の背景にも多くの困難があるのです。さらに一見同じ障がいの選手でも、全く見えない状態から泳ぎ始めた選手と、途中で病気になり視力を失いながら記録を伸ばしてきた選手では、苦労や経験が全く違います。そこには速さの比較だけではわからないストーリーがあるのです。

一人ひとりが自分と向き合って生きてきた姿を見ていただくことが、パラリンピックの真の魅力だと思います。そして、パラリンピックのようにそれぞれの特性に合った金メダルがあり、順位や能力だけでは安易に人と人を比べられない、というのは実のところすべての人に当てはまることではないでしょうか。多くの人に、パラリンピックを通じてそのことに気づいてQOL（生活の質）を向上して欲しい。それも私の願いです。

東京パラリンピックの後、私はパラスポーツの強豪国であるスペインへ渡り、現地のチームでトレーニングを重ねてきました。そこで最も印象的だったのは、選手の強化制度でも、特別なトレーニング方法でもなく、一般のスポーツ施設で日常的にスポーツを楽しむたくさんの障がいのある子どもたちの姿でした。

スポーツを楽しむことは、すべての人に与えられるべき権利であり、一生懸命になりに打ち込む喜びを知ることが、豊かな人生を送るために欠かせない経験の一つです。障がいのある人もない人もみんなでスポーツを楽しめる社会にしたい。そしてあらゆる特性の人々が自分らしく力を最大限に発揮できる、本当の意味での共生社会を築いていきたい。「YMCA国際チャリティーラン」大会委員長として、皆さまと共に歩んでいきます。よろしくお願いします。

●全国のYMCAのさまざまな活動はこちらからもご覧いただけます。 <https://www.ymcajapan.org/>

能登半島地震 ボランティア活動報告

YMCAが1月から支援活動を行っている輪島市町野町の避難所で4月22日～26日、ボランティア活動をした熊本大学YMCA花陵会の朝廣大己さんに、報告を聞きました。



物資の仕分けをする朝廣さん(写真左)

震災から4カ月。まだ災害の爪痕が鮮明に残る輪島市で4日間、避難所のサポートと近隣家屋のがれき撤去作業を行いました。町野町東陽中学校の避難所には53人が避難されており、私たちはそこで、朝の換気、トイレ掃除、弁当の仕分け、避難所の皆さんの話し相手、ラジオ体操などを行いました。中でも大切だと感じたのは、被災者の方々と会話することでした。

「40年以上住んだ家が壊れているのを見るのが苦しい」と語られた方。「大工をやめる」「農業をやめる」と言う方も多くいました。思い出や人生が詰まった家が壊れ、仕事や生活の場を失い、再起不能なまでに追いやられた方々の声に、胸が締め付けられる思いがしました。集落の世帯数が半減するという話も聞き、少子高齢化と過疎化の一途をたどる地域を襲った災害の痛手に、町の将来も非常に心配に感じました。

家屋の公費解体が遅れている原因の一つに、手続きの問題があることも知りました。解体申請には登記上の全員の実印が必要ですが、特に田舎では複数人で農業登記しているケースも多く、被災後に実印をそろえるのは困難です。このような問題は能登に限った話ではないようで、きっと熊本地震でも同じ問題はあったはずですが、誰も変えようとしなかったのはなぜだろうか。どこか他人事として見ていたからではないかと感じました。

災害が起きると地域の潜在的問題が顕在化し、被災地の復興をより複雑なものにしてしまいます。そういう問題を解決するには、やはり実際に現地を訪れ、自分の目と耳で知ることが重要だと思います。ボランティア活動は、被災者を手助けするための活動ですが、活動の後にこそすべきことがあると感じました。

今回の経験は私にとって間違いなく一生ものの経験になりました。このような機会をくださった皆さまに感謝します。 熊本大学YMCA 朝廣 大己(花陵会名: ワシミミズク)

アジア・太平洋YMCA同盟 韓国に新事務所オープン

韓国・済州島に、

アジア・太平洋YMCA同盟 (APAY) の新しい事務所が建設され、香港の事務所の一部が移転されました。4月



19日から21日、年に一度の「APAY常務委員会」がここで開催され、14の国と地域のYMCAリーダーたちが集まり、併せて献堂式も行われました。式典には、韓国・済州道知事、韓国YMCA連盟会長および世界YMCAソヘイラ・ハイエック会長など総勢200名以上が出席し、門出を祝いました。

新事務所は自然豊かな韓国・済州島にある「YMCA国際青少年センター」の敷地内にあります。この青少年センターは1986年に大阪YMCAをはじめとする多くの日本のYMCAからの寄附によって創設された施設で、献堂式ではそのことへの感謝が韓国YMCA連盟会長から述べられました。現在、青少年センターの宿泊施設のリニューアルが進められています。済州島を中心にアジア・太平洋地域のYMCAの連帯がさらに強まること、そして社会の変革を担うユースが育つ場としてこの場所が用いられることが期待されています。(日本YMCA同盟 杉野 歌子)

ウクライナYMCAによる現地活動報告

日本のYMCAは、日本で避難生活を余儀なくされているウクライナ人の支援とあわせて、ウクライナ現地での活動を「YMCAポジティブネット募金」を用いて行っています。4月16日、現地活動報告がオンラインで行われました。

ウクライナYMCAは、侵攻直後は活動休止を余儀なくされましたが、現在では侵攻前とほぼ変わらず、国内20カ所で、約500人のボランティアが中心となって、青少年活動を行っています。しかし、この3月下旬にも、キーウYMCAの数十メートル先が爆撃されるなど依然として緊迫した状況が続いています。

子どもたちのトラウマは深刻です。激戦地ハルキウでは、戦禍を目の当たりにしたり、家族を亡くした子どもたちに、専門家による動物とのふれあいやアートを取り入れたキャンプを実施しました。

比較的に安全と言われる西部地域でも、東部から国内避難してきた子どもや、親が兵役中の子どもが多いことから、演劇やアートを取り入れた自己表現や気づきを目的としたセラピープログラムを行っています。

日本のYMCAから寄せられた募金によって、こうした心のケアのためのキャンプやイベントを24回実施し、2600人の子どもたちが参加することができました。



ウクライナYMCAは、東京YMCAと20年余にわたる交流があり、侵攻後もクリスマスカードの交換などが行われています。ウクライナYMCAのビクター総主事は「日本とウクライナは遠く離れているが、いつも寄り添ってくれることに励まされています」と感謝の言葉を述べられました。

YMCAインターナショナル・チャリティーラン 各地で開催スタート

障がいのある子どもたちを応援する「YMCAインターナショナル・チャリティーラン」が、今年も5月12日の和歌山大会を皮切りに全国19のYMCAで開催されます。

この大会は1987年に始まり、障がいのある子どもたちのプログラムを支援するとともに、「障がい」への社会的関心を高めることを目的としています。昨年度の参加者は全国で計9970人。地域の企業や団体をはじめ、YMCAの会員・学生・園児など、国籍も年齢も障がいの有無も越えて、さまざまな人たちが各地でランを楽しみ、ご協力くださいました。今年も大会委員長に、パラリンピック競泳の富田宇宙選手(=1面)を迎え、一層の盛会が期待されています。

参加方法など要項は開催地によって異なります。詳細はお近くのYMCAにお問合せください。多くの方のご支援・ご参加をお待ちしています。

詳細はこちら >>> <https://www.ymcajapan.org/charityrun/>

開催スケジュール (5月10日現在)

YMCA	2024年開催日	YMCA	2024年開催日
和歌山	5月12日(日)	とちぎ	※9～10月頃
北海道	5月26日(日)	名古屋	11月 2日(土)
山 梨	6月 9日(日)	埼 玉	11月 3日(日)
大 阪	9月22日(日)	神 戸	11月 4日(月・振休)
仙 台	9月23日(月・祝)	茨 城	11月16日(土)
盛 岡	9月23日(月・祝)	鹿児島	11月末～12月初旬予定
東 京	9月28日(土)	熊 本	11月17日(日)
千 葉	9月28日(土)	広 島	11月23日(土・祝)
横 浜	10月19日(土)	ぐんま	2025年3月23日(日)
奈 良	10月20日(日)		